優秀賞

「生命保険」という名の架け橋

福岡県　敬愛中学校　二学年

安田　彩乃

私の母は物持ちがいい。ふちが欠けたお皿も、金継ぎをして直しながら使う。

「一つ一つに、大事な思い出が詰まっているのよ。これはその中でも特別なの。」母はこう言って、赤ちゃん用の小さなお皿を手に取る。兄も私も、このお皿でご飯を食べて大きくなった。母はこの食器を何よりも大切にしていて、嬉しいことがあった日も、悲しみに沈んだ日も、手に取って語りかけるように見つめている。この食器は母の幸せな思い出が詰まっている、大切な宝物なのだ。

母には親友がいる。進学、就職と、人生のステージが変わっても、二人はいつも仲良しだった。親友が出産した時、母はお祝いに小さな食器セットをプレゼントした。親友は大喜びだったそうだ。その少し後に、親友に病気が見つかった。入退院を繰り返す親友を元気づけたくて、母は何度もお見舞いに行った。心配なことはないか、必要な物はあるかと尋ねる母に、親友は、「生命保険に入っているから大丈夫。保険って大切よ。いざという時に備えて、あなたも加入してね。次に会う時までの約束よ。」と言って笑ったそうだ。親友の明るい言葉に背中を押されて、母もすぐに生命保険に入った。親友も喜んでくれて、会えばいつも、互いの人生設計や保険の見直しの時期などを語り合ったそうだ。

母は当時を思い出す時、「生命保険が私たちの希望の光だった。」と言う。保険が二人の未来を明るく照らしてくれた、と笑顔で語る母の姿に、二人の温かな絆を感じて、私も幸せな気持ちになる。

その後、少しずつ親友の病状が重くなり、起き上がることが難しくなった。母は自分の出産もあって、お見舞いに行けない日が続いた。そんな時、ふいに親友が訪ねてきたそうだ。出産祝いに赤ちゃん用の食器セットを持って。母は久しぶりに親友に会えた嬉しさで大泣きした。親友は母の背中をさすりながら、「私がもらった食器セットとお揃いにしたんだよ。この食器を見るといつも、あなたを思い出して幸せな気持ちになるから。」と言ってくれた。母が保険の見直しをして出産に備えたことを伝えると、親友は、「生命保険って大切よね。あなたが保険を見直してくれて良かった。未来は明るいね。」と言って、本当に嬉しそうに笑ったそうだ。それからほどなくして、親友は息を引き取った。

この話をする時、母は、「生命保険は、親友が私に託してくれた未来なの。だから保険を考える時は、親友を思い出して温かい気持ちになるのよ。」と言う。

そして、「生命保険って大切よね。」とつぶやく。私がうなずくと、「親友の口癖だったけれど、今はそれが自分にもうつっちゃった。」と笑う。この時の母は親友を思う優しさに満ちあふれていて、私は胸が熱くなる。それと同時に、親友が母に託した思いが、今も確かに息づいているのを感じて、幸せな気持ちになる。

生命保険には、加入している人だけでなく、周りの人も幸せにする力があるのだと、私は今、改めて実感している。

生命保険は、未来への架け橋だ。親友と母を温かな思い出で繋いでくれたのも、母と私を未来へと導いてくれるのも全て、「生命保険」という名の架け橋だった。そしてこの架け橋がこれからも、私と大切な人たちを繋いでくれる。互いの幸せを願う時、この架け橋がきっと、私たちを明るい未来へと導いてくれるだろう。親友が母の幸せを願って保険加入を勧めてくれたように、私も大切な人に、この架け橋の大切さを伝えられるようになりたい。そのために、これからも生命保険について学び続けていきたいと思う。